

①農業人材力強化への支援

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 農家が高齢化し、後継者不足や空き耕作地への課題もある中、農業に魅力を抱いて新規就農に取り組む若い世代への支援は重要だと思われる。 ◆ 地域経済を支える重要な基幹産業であることは間違いなく、行政が行うべき事業として妥当性は十分。 ◆ 必要不可欠な事業と思われる。 ◆ 新規就農希望者への支援に繋がっており、次世代を担う就農者の確保にも繋がると考えられる。 ◆ この事業を実施することで、人づくりにも繋がってゆけるものと思われる。必ずしも目標値を達成できなくとも、事業は必要と考える。 ◆ 事業内容は、新規就農者の補助事業として、妥当である。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新規就農経営体数が目標値には及ばないものの、着実に増加もしくは維持できていることから、有効な事業と考える。 ◆ 農業所得だけ見れば疑問は残るが、農業機械導入や住居費用の補助といった総合的な支援も行われていることを勘案すれば有効と考える。 ◆ 農業経験者以外からの参入を促すならば、入り口となる支援策は必要であることから、事業は有効と思われる。 ◆ 事業規模に見合った内容で、有効と判断する。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県民局や農協との連携を更に強め、儲かる農業を確立させることが市のコスト削減につながる。 ◆ 行政ならではの事業であるため、継続して欲しい。 ◆ 新規就農者の定着性、生産性、収益性などのフォローが必要で、それを見てからの分析となるが、現時点では、それなりに機能している。
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 目標値には届かないものの、16経営体の支援や毎年度10件以上の事業説明が実施されていることから、公平性に問題はない。 ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（4人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 市の基幹産業である農業をさらに推進するため、交付年数を延長する等、中長期的な支援が必要と考えるため。 ◆ 市の重点事業、基本事業であると思われる。 ◆ 将来的にも基盤産業として新規就農者への支援は重要なため積極的に取り組んでいただきたい。 ◆ 毎年目標値を掲げて実施しており、目標値が達成できなくても新規就農者があることに希望が持てる。 <p>現状のまま継続（7人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新規就農のハードルは決して低いとは思えず、基幹産業の維持・拡大のために必要。 ◆ 新規就農者育成の観点から、継続的に実施する必要がある。 ◆ 当市の基幹産業である農業で、少しでも人口減少の歯止めとしたい。 ◆ 一次産業は十和田市の基盤産業であるが、この方策以外にも重点化を図るべき内容を検討する必要性を感じる。

令和3年度 十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本事業の趣旨の理解として、農業新規参入を考えている人たちをターゲットとした支援策であると考え、結果より一定の成果が出ているものとする。 ◆ 農業に従事する若者を育成する目的において継続は必要。 内容を改善して継続（2人） ◆ 国の制度変更の動きを捉え、市独自のものを加えるなど、より使いやすく効果的な支援をしていただきたい。 ◆ 新規獲得は継続する必要があるが、市が掲げる目標値に届いていないのならば、てこ入れをするべきだと思われる。
6	その他 提言等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コロナで米価が下落し、就農への影響が考えられる。反面、コロナの都会離れで、田舎での就農を考える人が増える可能性もあり、売込みのチャンス？とも思われる。 ◆ ホームページ、SNS等の活用を積極的に進めてほしい。 ◆ 新規就農については、小・中・高校生の段階で、将来に夢が描けるようなマスタープランを考えるべき。 ◆ 農業者を増やすという意味で他産業からの人材の流動を広く促すことが目的ならば、違ったアプローチが必要と考える。 ◆ 農協の実施する補助事業等と重複しない事業を考えていただきたい。

② 中心市街地活性化

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 行政が主体となり、課題を整理する必要があるが、民間のノウハウや協力を十分に取り込むべき。 ◆ 市の顔である中心街の再生は必要不可欠。 ◆ 空地・空き店舗については、全国的な問題となっている。また、商店街としての機能を考えると現状難しいと思われる。しかし、市では公共交通拠点づくりや地域交流センターを進めていることで変わって行くことを期待し、妥当性はあると考える。 ◆ 事業内容は、市街地活性化事業として、妥当ではあるが、更に検討すべき課題も残っている。 ◆ 『コンパクトで持続可能なまち』という理念は理解できるが、現状、都市機能に含まれるようなリソースは市内で分散しており、一部の交通拠点と複合施設の建設だけではまだまだ理念との乖離を感じ、広く市民感覚としても懐疑的な見方があるのではないか。人口減少などの課題に対する解決の方向性としては同意であり、だからこそもっと大きく構想する必要があると考える。現行機能の代替、あるいは微修正の積み重ねではなく、最終地点を明確にデザインし、市民に魅力的に伝えることが市民に夢を与え、実現性の実感に繋がるものとする。 ◆ 市の活性化のためには必要であるがより強力なリーダーを必要とする。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 様々な問題はあると思うが、幾分スピード感に欠ける感がある。 ◆ 交流センター完成後の利用・需要見込みなどはどうなっているか、誰がどのスペースをどう使うのか、あるいは誰にどう使ってほしいのか、ある程度の青写真はありますか。 ◆ 商店街の問題もあるが、今の整備を機に景観改善への必要性があらためて考えられたように思われる。 ◆ 歩行者・自転車交通量が増えている状況から中心市街地活性化に繋がっていると思われる。 ◆ 公共交通拠点づくりや地域交流センターができた後も、成果向上に向け、まず市民が足を運んでくれるように、商店街や関係団体と連携を取って行くことで有効性があると思われる。 ◆ 事業規模・事業内容については、その後の検証が必要と判断する。 ◆ 有効な方策をスピード感を持って進むべき。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アートの街として立派な施設を有するが、それぞれが独立し、回遊性が高いとは言えない。また、アートを軸に観光業を取り込んだとしても現状では“お金が落ちる”システムが整備されていない。 ◆ トワーレとの連携も必要だと思うが、例えば街なか施設の利用促進を図る担当課・者を施設内に置き、いろいろな仕掛けをしていくようなことは考えているのか。 ◆ 効率性についても、その後の検証が必要と判断する。 ◆ トワーレと新しくできる交流センターの利用の違いはあるかどうかをきちんと説明して理解を得る必要がある。

4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公平性のある事業の推進と考える。 ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（7人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域交流センターや公共交通拠点の整備が、どの程度活性化に寄与するかは不透明。 ◆ 市の中心的な役割が必要である。 ◆ 中心市街地活性化のために公共交通拠点の整備は重要であると思われるので積極的に取り組んでいただきたい。 ◆ アーケードのあるところ、アーケードがなくなったところをどのように活用して行けるのか、また撤去するとしたら国・県の支援策があるかどうか調査しながら街を活かしていただきたい。 ◆ 将来の中心街の価値は、過去や現在とは全く異なるものと考え。モノやサービスが集約されるだけでは無機質なまちになり得るのではない。中心街活性化の構想には十和田市の文化や歴史を取り入れることとしており、とても大切な点だと思う。ただし、過去の繁栄を回顧するだけではなく、現代の生活の中にどのような姿で受け継がれているのかを考える必要があると思う。必ずしも史書や記録に残らないものがそれにあたることもあり、むしろそれらが未来を新たに創造する上で重要なポイントではないか。持続可能性という観点からも、『中心街の価値デザイン＝十和田市の価値デザイン』と考えることから、在りたい姿を再構築していただきたい。 ◆ 空き店舗の整備をした上で、新しい町を作り上げることが重要。 <p>現状のまま継続（5人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ なかなか終期（完成）を見ない計画の中、形を変えながらも事業が進展していることから、街なかの活性化を図るためにも、このまま継続していただきたい。 ◆ 計画途上であり、現状のまま継続が妥当である。 ◆ 今さら簡単に計画変更ができないだろうという意味で「現状のまま」とする。 ◆ 整備中の施設稼働後に期待する。 <p>内容を改善して継続（1人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 十和田市の市街地活性化は、急速な人口減少社会を迎えるなかで、難しい状況が待ち受けている課題である。現代美術館とのコラボなど、どのように発展させるかの将来像が欲しい。マスタープランの検討が必要かと思われる。
6	その他提言等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コロナ禍での閉店を余儀なくされた事業者もあり、食の提供が薄くなりつつある。コロナの収束が見込めた際には、アートと当市の魅力ある食材のコラボレーションが図れるような活性化にも取り組むよう検討していただきたい。 ◆ 十和田湖の入口であり、立派な建物・施設の多い中心街ではあるが、観光客が足を止め、お金を落とすシステムを構築して欲しい。 ◆ 施設を造るからには需要調査もしていると思われるが、土地が空いたから何となく人でにぎわうような「交流」という名の施設を建て、維持費だけがかさむということのないようにしていただきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ◆ バス停の設置は事業者が検討する…その通りだが、市の目玉施設に対するアクセスを少しでもよくしようという姿勢が感じられない。交通拠点隣接地が計画通り進まなかった場合、市は必要な整備や機能をどう補うのか、不安が残る。 ◆ 無料駐車場の設置。交流センターや交通拠点の利用を証明するものがあれば無料にするなどしてはどうか。 ◆ 商店街の次世代の方々にプロジェクトチームを編成してもらいエネルギーな活動を望みたい。 ◆ (仮称) 地域交流センターでの様々なイベント等を企画して頂きたい。 ◆ 商店街といっても、商店街に店主がどのくらい住んでいるのか？現況、中心外に大型店が進出しており、今後中心街として考えるならば、いかに人が集まるかの工夫をしていかなければならない。 ◆ コロナ禍により、どうしたら生き残れるか、生の声を聴いてみたい。
--	--	---

③ 特定不妊治療支援

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 妊娠を望む夫婦にとって、高額な不妊治療費用は相当の負担であることから、県や市が助成することは妥当である。 ◆ 少子化対策の一環として必要な事業である。 ◆ 女性がキャリアを積むのに伴い、今後も晩婚化などで不妊問題の支援は必要であると思われる。 ◆ 少子化対策の一環でもあり、高額な治療費への支援であり、行政の支援が必要であると思われる。 ◆ 事業内容は、不妊治療支援の補助事業として、妥当である。 ◆ 妥当と認める。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 潜在的な治療希望者がどの程度存在するかは把握が難しく、助成率での有効性は判断できないが、治療後の出生数や自己負担額からすれば、本事業の有効性は認められる。 ◆ 事業規模に見合った内容で、有効と判断する。 ◆ 有効性は認められる。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 助産師・保健師など関係者のマンパワーが律速段階となる事業であり、効率性も対象となる妊婦の状況に依存するので、判定は難しい。効率性の再定義が必要かと思われる。
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（2人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 県の支援拡充に伴って浮いた市の分を、別枠の支援策として男性の不妊治療も対象に講じてみてはどうか。 ◆ 不妊治療の保険適用となるまでは不妊治療の対象者への支援は経済的な面からも重要と思われるため必要な事業と思われる。 <p>現状のまま継続（6人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 子供の必要性、市の将来を考える必要がある。 ◆ 十和田市内でも不妊治療ができる病院があるといいが、なかなか難しい事業だと考える。夫婦にとっては大変なことだと思われるが、現状のままでの事業継続をしていただきたい。 ◆ 少子高齢化の一つの側面でもあり、本来は、適齢期の夫婦が子育てがし易い環境を整えることが、本質的な問題の解決策である。 <p>内容を改善して継続（4人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 保険適用となった場合においても、一回の治療費自体が高額なことや治療回数が複数回に及ぶこと等から、自己の負担が現在の負担より軽減されるよう検討していただきたい。 ◆ 少子化対策の一環として治療に対する支援も重要だが、出産後の生活に不安を感じて治療を決断できないケースも考えられ、総合的な支援策への改善も検討すべき。 ◆ 低所得世帯でも治療にチャレンジが出来るよう、治療費の立て替えをしなくてもよい支援策を検討願いたい。

令和3年度 十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 出産後の支援を含め、総合的にみる必要があるのでは…？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事業の統廃合を図る（1人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ある一定の効果があるものの、本事業が「保険適用」となる場合においては、内容の改善が必要である。
6	その他 提言等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 制度上仕方がないかもしれないが、事後助成というのは利用する側からすると使いにくいのではないか。もしそうであるならば、改善のしようはないものか。 ◆ 支援事業があることが不妊に悩む人にとって心強いと思われる。 ◆ 里親制度も同時に周知を図ってみてはどうか。 ◆ 子育てがし易い環境（経済的）をどのように自治体が考えるか、この問題の本質を問い直すことが必要だが、難しい。

④健康診査の推進

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 行政が行うべき事業ではあるが、対象者の勤務先の事業所の協力を強く要請すべき。 ◆ 有益性が高い。 ◆ 市民の健康を考えると、妥当性のある事業だと思われる。 ◆ 事業内容は支援事業として、妥当である。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ポイントラリーの実施等で受診率向上は見られるが、大幅な向上を目指した工夫を期待したい。 ◆ 他市町村と比較して受診率が高い結果から当該施策は効果が高いと思われる。 ◆ 多くの取り組みをしていることから有効性はあると思われる。 ◆ 事業規模に見合った内容で、有効と判断する。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康診断により、病気に対する予防意識の向上が事業の効率性となると思われるが、問題ない。
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（3人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ さらに加速しなければならない。 ◆ 病気の早期発見、早期治療が必要と思われるので、検診者を増やすことは重要なため積極的に取り組んでいただきたい。 ◆ 市民の健康管理、また、健康寿命の延命にとって必要な事業であるが、子宮頸がんについては、検診に留まらず、ワクチン接種への取り組みを検討していただきたい。 <p>現状のまま継続（9人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 様々な工夫により、受診率 up を図り、事業展開している。引き続きがんの早期発見・早期治療には欠かせない取組である。 ◆ 地道に取り組むべき事業と考える。 ◆ 無料クーポンで一定の成果はあるようだが、問題は市民側の意識をどう向上させていくかだと思われる。 ◆ 取り組みや事業は適切と思われる。市民に更に積極的に参加していただくためにも、現状のままでの事業継続をお願いしたい。 ◆ 予防衛生事業は、地味な内容だが、極めて重要である。費用対効果の概念からは、予防ほど安いものは無いが、市民の意識が低く、更なる啓発啓蒙が必要である。 <p>内容を改善して継続（1人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 受診率向上は担当課の努力の成果と評価するが、民間事業所との連携を行って更なる受診率向上を図るべき。
6	その他提言等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 受診率の高い事業所や地区名の公表・表彰、低い事業所や地区に対する指導を実施してはどうか。 ◆ 受診率向上、精検率向上へ周知徹底を継続してほしい。 ◆ 市民の不安を若干、あおるようなPRも検討してみてもは。 ◆ 市内の健康経営宣言の事業者の広報や、事業者と協力した事業等も考えてみては？

⑤ 空き家等対策

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 不動産業者へのヒアリングでも出た意見として、遠隔地にいる所有者や相続人に対し直接連絡しても不審に思われたり、激昂されたりするケースもあるとのことであり、行政主導での対策が妥当。 ◆ ますます深刻化する問題である。 ◆ 空き家等の所有者の管理責任を促す注意喚起、意識啓発であると思われる事業を行うことは妥当である。 ◆ 個人の持ち物に助言や指導はなかなか難しいものがあると思われるが、市は妥当性のある事業を継続していると考える。 ◆ 事業内容は近い将来には更に大きな問題となることを考えると、事業として、妥当である。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 空き家バンク登録数・契約数とも県内上位とのことではあるが、空き家数の比率も県内上位の可能性もあり、事業の有効性を更に高める努力が必要と考える。 ◆ 事業規模に見合った内容で、有効と判断する。 ◆ 空き家バンク制度は、現時点では解決に向けたもっとも有効性のある対策と考えるが、現状、空き家数に対する制度への登録数が少ない。様々な要因があると思うが、その要因を解消するアプローチにより、改善することで制度が活用されるのではないかと。要因解消へのアプローチがなんらかの理由で困難であるならば、別な有効的対策を検討いただきたい。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 専任媒介契約の事務負担から、登録はしているものの積極的に物件を取り扱いたくない宅建業者の声も聞かれる。可能であれば媒介契約を変更してでも、登録件数増・契約件数増を図るべきと考える。 ◆ 現時点では、良いとは言えないが、将来的に数が増えることを想定すると、次に何をするかを考える必要がある。 ◆ 不動産業者との緻密な連携が必要であり、望まれる。
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（6人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今後、人口減少や高齢化の進展により、一層空き家が増えていく傾向にあると思われる。それに比例して苦情の増加や市全体のイメージダウンにつながるかと推察されるため、積極性、具体性、実現性のある取組みにより、成果を表せるような事業となるよう期待する。 ◆ 移住者数増加のためには住居確保がポイント。中心市街地活性化のためにも中心部の空き家・空き店舗対策は強化必要。 ◆ 特定空き家の認定で重点化が図られているが、今後も特に危険な廃墟を中心に強化していただきたい。 ◆ 市街地には多くの廃屋が存在しているため、安全上早急な対応を望む。 ◆ 人口減少により空き家が増えると思われるため、所有者への適切な管理を啓発することは重要であると考えます。 ◆ 増えていく空き家の持ち主に対して、適切な対応を求める為に行政の強い指導が求められる。 <p>現状のまま継続（6人）</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 対応が必要であると思われる。 ◆ 相続等による空き家については、今後継続的課題として捉えており、内容についても検証しながら事業継続していくべきと考える。 ◆ 景観・防犯・まちづくりなどにおいて、今後ますます重要性が増す課題だと思われる。他自治体の取り組みや市民らのアイデアも生かして柔軟に取り組んでいただきたい。 ◆ 空き地・空き店舗については、市としても簡単に処理できるものではないと考えられるので、これまでの市の手段でのやり方で継続していただきたい。 ◆ 今後も減ることは無く、増えることが予想される問題であり、5年、10年の単位でのシミュレーションなどが必要である。 <p style="margin-left: 20px;">事業の統廃合を図る（1人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 予算規模が小さく有効的な対策が講じることができないのではないか。少額予算でも実施してさほど効果が出ない事業であれば人的リソースも含めもったいない。また、空き家の利活用とは事業を統合し、総合的に評価した方が問題の解決においては合理的であると考えます。
6	その他 提言等	

⑥公園施設の整備

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公園は、区域区域に存在すべきであり、整備・管理は必要である。 ◆ 行政主体で妥当である。 ◆ 事業内容は整備事業として、妥当である。 ◆ 市民、特に子供の憩いの場として必要不可欠と思われる。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 幼少時の子どもにとっても安全な遊具を検討し、公園の魅力のひとつとしてアップさせてはどうか。 ◆ 時代の変化とともに、公園の利用状況や利用方法も変化するのは当然のことであり、他部・他課と連携してでも時代に合わせるべき時期。 ◆ 遊具事故発生が0件であり、必要な施設設備の保全がなされており、当該事業は妥当である。 ◆ 事業規模に見合った内容で、有効と判断する。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 人口減少による利用状況低下においても、法律により閉鎖も縮小もできないのならば、遊具の一部削減等でコストカットを検討してはどうか。 ◆ 事業内容に見合っている。
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（1人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 安全利用のためには遊具の他、樹木・歩道の整備も必要と思いますので維持管理の継続、安全点検の徹底が必要な事業だと考える。 <p>現状のまま継続（10人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公園の持つ機能を重視し、様々な角度から公園維持に努めていただきたいため。 ◆ 公園施設については、子供の遊び場、市民の憩いの場あるいは災害時利用等の側面もあり、整備に継続的に努める必要がある。玩具等については老朽化に伴う、撤去・新設について、内容吟味の上、取組すべき。 ◆ 適性な維持管理は当然のこと。まずは安全第一だと思うが、使いやすさ、使いたいと思わせる工夫も欠かさないでいただきたい。 ◆ 遊具等の事故はゼロを守っていただきたい。 ◆ 新しい遊具の設置の難しさも理解した。ただ、各公園の樹木だけではなく、地面の整備も継続していただきたい。 ◆ 会議でも指摘したが、少子化による利用効率低下と維持費の問題の費用対効果をどのように考えるか。この検討が必要。 <p>内容を改善して継続（2人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 公園自体の整備は必要であるが、柔軟な考えを持って時代の変化に対応すべき。 ◆ 時代に合った公園像があると思われる。年代に関係なく利用できる場であっていただきたい。
6	その他提言等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 法律で必要な施設としてだけでなく、市民の憩いの場、魅力ある公園としての在り方を議論すべき時期と考える。

		<ul style="list-style-type: none">◆ 桜の広場でスケートボードを楽しんでいる子どもをよく見かける。五輪も影響してストリートスポーツブームだ。市議会でも話題が出たが、簡易的でも安全に楽しめる公園施設が必要では？（管轄が違うと思われるが、意見として）◆ 会議でも指摘したが、少子化・人口減の中で、地域の公園の機能を多様かさせるような仕組みはないだろうか？
--	--	---

⑦公共交通の維持・確保

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 交通弱者や通学者等のためにも必要な事業であり、また、地域の公共交通を支える交通機関への支援も重要である。 ◆ 市民にとって必要不可欠な公共交通は維持されるべきであり、行政が行う妥当性がある。 ◆ 公共拠点については、乗降する場所が中心地にできることは、妥当性のあるものと思われる。 ◆ 事業内容は公共交通の維持・確保として、その意義は妥当であるが、費用対効果を考えると、難しい判断である。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市民サービスの観点から有効。 ◆ 循環バス、シャトルバスの利用増からも事業が有効に機能していると思われるが、市民サービスの観点からさらなる見直しが求められる。 ◆ 公共性という事業内容と事業規模、それに対する利用者の数、これは同じことを繰り返すが、費用対効果として、どの程度まで許されるかという判断が、どこかで必要となる。現時点では、有効とするが。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 人口減少、高齢化から効率性向上は容易ではない。ただ、スーパーへの買い物客に限れば、移動スーパーの拡充や買い物バス（生協が青森市戸山地区、幸畑地区で運行）と言った民間事業者との連携も検討すべき。 ◆ 難しいが、公共交通を維持する目的には同意する。 ◆ 効率性については若干疑問があるが、現時点では認める。
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（4人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 市民の足の確保は必要である。 ◆ 路線バス、循環バス、乗り合いタクシーのいずれも公共交通として必要であり、乗り継ぎの工夫や切り替え等の取組を強化することは重要なため、積極的に取り組んでほしい。 ◆ 路線バスを活かしながら、市街地循環バスも利用しやすいようにしていただきたい。 <p>現状のまま継続（4人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 暮らしを支えるうえで欠かすことのできない事業。特に郊外の路線維持が課題になると思われるが、引き続き対策を進めていただきたい。 ◆ 市内は広く、効率的な運行も難しいと思うが、市民のニーズを把握して柔軟に対応していただきたい。 ◆ 本事業は、不確定要素が多く、トライアンドエラーの繰り返しでブラッシュアップしていく性質のものであると考える。 <p>内容を改善して継続（5人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 市街地循環バス・西地区シャトルバスは、100円の運賃としているが、年間の利用者数から事業費に対する収入割合は1%程度であることから、無料とすることにより、利用率が上がると見込むため。 ◆ 他県、他市町村の事例の調査、取り入れを行いつつ市民の足を維持。

令和3年度 十和田市外部評価委員会 事業評価集計表

		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 交通弱者の為、必要不可欠な交通網の維持・確保は必要である。委託者の赤字が継続的になっており、事業者負担から内容について、不利益内容に改善していくことが肝要であると考ええる。 ◆ 少子化・過疎化と市の予算規模の縮小など、マイナスの要因が多く、これらと公共性という観点とのバランスで判断せざるを得ない。 ◆ 循環バスの利用を促進するには、無料にする事も検討の余地があると思われる。
6	その他 提言等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 5年後、10年後のシミュレーションが必要。 ◆ コロナの影響により、中小バス事業者の経営状況は悪化し、運転手などの労働者確保も厳しさを増していることから、バス事業者との連携を密にし、路線バス維持に向けた事業者支援を拡充していただきたい。

⑧ 市民交流プラザの利活用の促進

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 建物の設置は行政以外にありえない事業であるが、利活用促進については民間の手法や意見を取り入れるべき。 ◆ 事業内容は市民の交流場所の提供であり、その意義は妥当であるが、費用対効果を考えると、その維持の方法を検討する必要がある。 ◆ 市の内部評価と本委員会での意見傾向あるいは市民感覚との間には隔たりを感じるが、細かな運用面においては、実務上の制約があり市民のニーズにすべてこたえることはできないと推察されるが、運営者として、トワレに対する市としてのアイデンティティを強く持ち、魅力的に発信した上で、利用者意見を踏襲した運用を行っていただきたい。 ◆ 近くに交流センターがあり、利用に関しては妥当かどうか疑問がある。
2	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アートの街を代表する立派な建物と認識するが、観光客の増加や中心市街地の賑わいを創出しているとの実感はない。 ◆ 利用者の要望を踏まえ、必要な修繕、施設運営がされていると思われ、市民サービスに有効に機能している。 ◆ 市民交流という事業内容と事業規模、それに対する利用者の数、費用対効果として、どの程度まで許されるかという判断が、どこかで必要となる。利用をし易くする何かが必要かと思われる。 ◆ 何に対して有効か？ 市民サービスの点では、ある程度有効と思われる。
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 予約の調整や利用者への対応の改善では、利便性の向上には繋がると思われるが、利活用が促進されるとは言えない。 ◆ 施設管理面では、経年劣化等により利用者の安全が保たれないハード面については、対応を検討する必要があるのではないかと。 ◆ 毎年の赤字額や今後の修繕費を考慮すれば、利用料収入の得られる先への貸出と経費削減を早急に検討すべき。 ◆ 赤字幅の縮小策が必要と思われる。 ◆ 現時点は、利用者数からはそれなりに見合っているが、将来は難しい。 ◆ 赤字幅の縮小が目下の課題と思われる。
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市内の他の公共施設で駐車料金を利用者から徴収している例はあるか。 ◆ 問題ない。
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（6人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 多額の建設費と管理経費を要する建物であり、利活用促進は重点化すべき。 ◆ 利用者の声を反映させるべきである。 ◆ 市民活動の拠点として一定数の継続利用があり、市内外に認知されており、市民に必要な施設であるため、積極的に事業展開していただきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ◆ トワーレのコンセプトはとても共感できるもので、外観も美しく、機能性も高い。もっと多くの価値を創出できると考える。コンセプトの理解としては、自由で開放的なコミュニティ創出の場と捉えているが、現状はハード的にもソフト的にも様々な点でバイアスがかかっており、自由さや解放感はあまり感じられない。コンセプトが実感を伴って体現されるかどうかは運営者の『本気度』にかかっていると考える。設備やシステムの問題だけではなく、『携わる人のエンゲージメントを高める組織マネジメント』と『トワーレの価値を信じているか』が重要と考える。 ◆ 利用促進する為に最大の努力を要する。市民の声を反映させて改善することが必要では？ <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現状のまま継続（5人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 街なかのにぎわいづくりのためには欠かせない事業。 ◆ コロナ禍において、利活用促進については厳しい事業であるが、中心街の施設の活性化は必要であり、継続的な事業展開を望む。 ◆ 公共施設の宿命でもあるが、維持費と利用内容・利用者数・利用占有率などが、どのレベルまで、公共事業として許されるかという試算が必要。さらに、利用し易い環境の整備など、柔軟性を持たせる必要もある。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容を改善して継続（2人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 施設の魅力や機能性を積極的に発信するとともに、利用率が低い親子ふれあいスペースやプレイルームについては、県内の施設の取組を参考に、スタッフの配置や遊具の充実等を検討する必要があるため。 ◆ アフターコロナでの利用率向上に力を入れて下さい。
6	その他 提言等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 年に一度、トワーレ独自のイベントを企画してはどうか。 ◆ 施設に対する不満の声も聞かれており、改善策を実施していただきたい。 ◆ 使ってなんぼ、の施設だと思われるので、より使いやすくなるよう改善（ソフト面でこのことになると思われるが）の余地があるなら改善を進めていただきたい。交流センターとの相乗効果を図る工夫も必要。 ◆ 個人的には、自己評価に建物の外観によるにぎわい創出を挙げていることに違和感がある。市民が活動する場が第一義的にあり、利用者の満足度の高い施設として取り組んでいただきたい。ただのきれいなハコモノにならないことを願う。 ◆ 地域交流センターができることで人の流れがどのようになるのか、また商店街も何かのきっかけ作りができるか期待している。 ◆ せっかく愛称の『トワーレ』があるのだからオフィシャルにも『トワーレ』という言葉を使った方がよいのでは？